

## 令和5年度建設労働災害防止大会開催

高田河川国道事務所工事安全対策協議会は、9月28日、糸魚川市マリンドリーム能生で、「建設労働災害防止大会」を開催しました。

この大会は、毎年9月第4週の北陸地方整備局「建設労働災害防止週間」活動の一環として、発注者・受注者が一堂に会し、工事現場における労働災害の撲滅を図ることを目的に行っているものです。

受注者の工事担当者、安全対策協議会役員、監督支援業務担当技術者、事務所職員など、約85人が参加、安全への意識を再確認するとともに、労働災害のない安全で安心して働ける職場環境の形成を目指して邁進することを確認しました。



## 安全衛生管理を徹底し、関係者一丸となって、 安全確保に取り組む



開会の挨拶で安達会長（高田河川国道事務所長）は、「建設産業は、地域の経済、雇用を支える基幹産業であるとともに、災害発生時には、いち早く現場に駆けつけ、応急対策、復旧作業に取り組むなど、地域の安全・安心を支える重要な役割を担っている。

管内ではこれまでに労働災害3件、公衆災害2件が発生し、前年同期比より労働災害が1件多い。

本大会を契機とし、関係者一丸となって、安全確保への取り組みをお願いしたい。工事も降雪期前で最盛期を迎え、また、台風の発生など気候も厳しくなるので、これまで以上の気の引き締めと、第5類に引き

下がりましたが、新型コロナウイルス感染症対策にもしっかりと取り組み、安全衛生管理の徹底をお願いしたい。」と、呼びかけました。

## 来賓ご挨拶

上越労働基準監督署の柳労働基準監督官からは、「上越労働基準監督署管内において、建設業において死亡災害が1件発生している。休業災害は大幅に減少しているが、新型コロナ、雪関連を除いた一般災害は増加しており、建設業においては、墜落・転落災害、転倒災害等の防止対策の徹底をお願いしたい。」と、お話しがありました。



上越労働基準監督署 柳労働基準監督官



妙高警察署 阿部交通指導係長

妙高警察署の阿部交通指導係長からは、ご挨拶と講話を頂きました。

「新潟県の交通死亡事故は、近年コロナ禍により、外出機会が少ないため減少していたが、第5類指定により、人の活動も活発になり、接触事故も増えてきている。」と話されました。

また、電動キックボード、自転車のヘルメット着用の呼び掛け、飲酒運転の防止、横断歩行者、高齢者への事故防止の取組み等についてお話しされました。

## 講演「建設業における労働災害の防止に向けて」

### 上越労働基準監督署 柳労働基準監督官

上越労働基準監督署の柳労働基準監督官には、ご挨拶に引き続き、「建設業における労働災害の防止に向けて」と題してご講演をいただきました。

上越労働基準監督署管内では、建設業において、29件の労働災害（前年比△19件）、1件の死亡事故（前年比±0件）が発生したとの報告がありました。

講演では、上越署版 第14次労働災害防止推進計画、各種労働災害防止のための取組み、法改正事項について説明されました。





## 安全十訓、安全宣言を採択

創和ジャステック建設（株）の畑野さんの発声により参加者全員で「安全十訓」を確認しました。その後、田中産業（株）の白鳥さんから、「一人の被災者も出さないため、本大会を契機として安全管理の原点に立ち返り、労働災害のない安全で安心して働ける職場環境の形成を目指す」と、安全宣言を提案、採択しました。



創和ジャステック建設（株）の畑野さんより安全十訓の発声



田中産業（株）の白鳥さんが安全宣言の提案

## 閉会挨拶

閉会の挨拶に立った、西田副会長（西田建設（株）代表取締役）より、「建設業界においても、高齢化が進む中、また、来年4月より残業の上限規制が始まる中、少ない人数で効率よく仕事を行うことが必要とされています。

事故を防止するためには、ベテランのノウハウを若い人に伝えながら、技能者、技術者共に、行動することが必要と考えております。厳しい環境下ではありますが、監督者である発注者と受注者がしっかり打合せしながら、春に向けて頑張りたい。」と挨拶があり、本大会を終了しました。

